

リレー記事 No.73

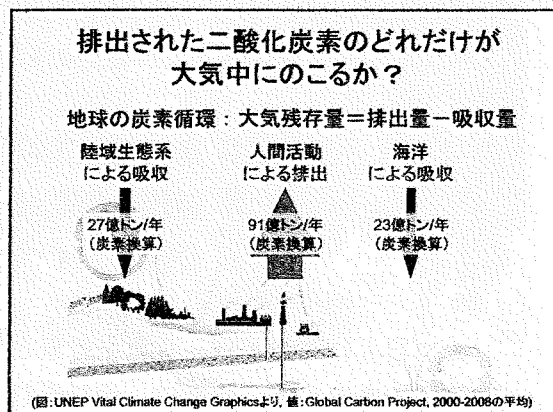
地球温暖化の現状と将来予測



先日、国立環境研究所、気候変動リスク評価研究室長の江守正多氏の講演を聞きに行ってきました。様々なデータによる科学的な分析で温暖化について静かに説明されました。

■地球の炭素循環

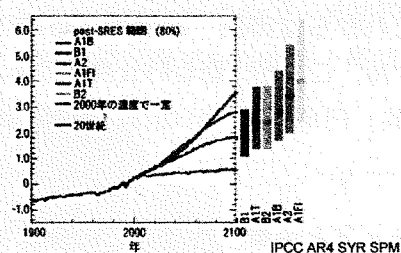
2000～2008年の平均で、大気中に残っている炭素は、右図のように、41億トン/年もあるそうです。単純に計算すると3億本近い杉の広大な森が、必要になります。太陽の黒点が増え、太陽活動が弱まると寒冷化するという説もありますが、影響があるかとマイナス1℃程度で、温暖化が止まる訳ではないそうです。



■地球規模の農業生産性

IPCC (気候変動における政府間パネル) によると、2℃の上昇までは、地球規模の農業生産性においては一部好転すると予想されています。しかし、2℃～4℃上昇の場合、生物多様性が広域で失われ、農業生産性が低下、4℃以上上昇の場合、多くの生物や自然の適応能力を超えるそうです。

予測される100年後の気温上昇量は？



温暖化の危機をいかに受け止めるかは、個々人の価値判断に左右されるものですが、将来の気温上昇を2℃に抑えられるのか、4℃以上上がるかは、今を生きる私たちの対応にかかっています。個人でライフスタイルを見直すことはすぐにできますし、技術開発も様々な分野で進行中です。しかし、エネルギー消費の社会システム変革には、様々な立場の人たちがいるので容易ではありません。温暖化の対策と経済発展とどのように折り合いをつけていくかが課題だと力説されました。

明確なのは、地球の限りある資源を使い尽くそうとしていて、CO₂が急激に増えていること、少なくともここ50～100年は気温が上昇することです。

50年後、100年後の人類に対して責任をもてる人間でありたいと思います。

《Ms. W》

「ぐりんぐりん古賀」運営への支援事業が始まります

154号でもお知らせしました古賀市の環境保全ネットワーク組織「ぐりんぐりん古賀（古賀市環境市民会議）」。広報紙創刊号が配布になり、ご覧になった方もおられることでしょう。

*「ぐりんぐりん古賀」は「古賀市環境市民会議」の愛称です。

このぐりんぐりん古賀の活動を持続可能にするための提案に対して、福岡県の補助が決まりました。これは、かねて古賀市環境課とエコけんで協議会を形成し、「平成24年度福岡県共助社会づくり事業による支援申請（新しい公共の場づくりのためのモデル事業分）」に申請していたものです。事業名は「古賀市環境市民会議(KKSK)の持続可能な推進のための人的・制度的開発整備事業」といいます。

具体的には次の3つの企画を、H24年7月～H25年3月の間、古賀市環境課と協働で、ぐりんぐりん古賀の皆さんの協力のもと、進めていきたいと考えています。

- ① 寄付制度の設計・運用
- ② 新規会員開発・人材育成
- ③ 交流啓発イベント



エコけんにとっては、全市を対象とした大がかりな事業でもあり、持てる力で精一杯がんばるつもりです。詳細は、それぞれの企画に対して発行予定の広報紙をご覧ください。まずは②に関する企画について、8月下旬にお届け予定です。どうぞお楽しみに！

<補足説明>

「新しい公共」

20世紀は、経済社会システムにおいて行政が大きな役割を担った時代でした。しかしながら、経済社会が成熟するにつれ、個人の価値観は多様化し、行政の一元的判断に基づく「上からの公益の実施では社会のニーズが満たされなくなってきました。そして現在、官民の役割分担の見直しが行われ、民間企業や個人と並んでNPOなどの民間セクターが重要な役割を担いつつあります。これまでの行政により独占的に担われてきた「公共」を、これからは市民・事業者・行政の協働によって「公共」を実現しなければなりません。これが「新しい公共」の考え方です。

出所「新しい公共」円卓会議 <http://public.dpj.or.jp/>

「福岡県共助社会づくり事業」

本県におきましても、NPO・ボランティアと企業、行政などの多様な主体との協働による新しい共助社会の実現に向けて、「福岡県共助社会づくり事業」として、NPO等の活動基盤の整備や寄附等を受けやすい環境づくりなどを積極的に進めていく予定です。

出所 福岡県HP <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/a07/kyouzuyo-kikinn2.html>

《S》

今年も連携教室が始まりました

福津市立福間小学校と福津市うみがめ課、そしてエコけんの三者で連携教室の取り組みを始めて今年で6年目になります。この連携教室は環境省、文部科学省、経済産業省認定の事業で、先生方が学校で円滑にエネルギー環境教育を進められることを目的にしています。

福間小学校では4年生の子どもたちや先生と「地球温暖化」をテーマに、学校への出前授業も含めて、1年間密にやりとりをしています。社会科でゴミを学びエコロの森の工場見学をした後、地球温暖化のテーマへつなげています。

子ども達と接してみて、10数年前比べ今は「地球温暖化」という言葉を知らない子がほとんどいません。ただ、原因や現状を正しく理解をしている子がどの位いるのかは、先生方も含めてまだ多くはないように感じます。今回は、出前授業の数日前に、国立環境研究所の江守氏の最新の情報をお聞きしていたので、早速授業に盛り込むことができました。4年生に向けて、温暖化について説明するのは、いつも悩む所ですが、暑い中子ども達も一生懸命聞いてくれました。その後「しろくまくんをすくえ すごろく」を体験し、どんな行動が温暖化ストップにつながるかを遊びながら知り、生活の見直しと、今後の行動化へと促しました。また、夏休み前でしたので、家族も一緒に取り組める省エネ、節電を含めたワークシートを配布し、宿題にしています。



今後は、8月の学習プラン作成ワークショップで9月以降の授業の予定を話し合い、11月の福津市環境フォーラムでは、壁新聞で掲示発表をすることになっています。

今まで、古賀、福津地区では多くの先生が連携教室に参加していただきました。私たちは、数回の授業でしか子ども達と関わることができません。この連携授業に参加していただいた先生方が、普段の学校生活の中で、継続的にエネルギー環境教育の視点を持って関わっていただく事で、継続的活動につながると期待します。

《Yっち》



▲しろくまくんすごろくの様子

ほっとカフェ 誕生

自分の誕生日、毎年お祝いしていますか？
奈良の薬師寺名物官長として知られた高田好胤氏の著書「母」より、忘れられない一句。

諸人よ 思い知れが己我身の 誕生の日は 母苦難の日
誕生祝いもいいけれど、命がけて産んでくれた母に感謝をしなければと、思いをはせる日でもあります。《Kまま》

未来を創るインタビュー

No.14 渋田 治彦 氏

古賀市天神にお住まいの渋田さんは、健康と老化防止のために、古賀西小学校周りと海岸のごみ拾いを早朝と夕方にしてこられました。汗を流しながらごみ拾いウォーキングを続けることで、長年苦しんだ喘息苦から解放されたそうです。

ひとりで始められた小学校沿いに花を植える行動も、いつの間にか協力者ができ、そのうち行政から、立派な花壇を作っていただくことになったそうです。沿道に花を植えるようになって、ずらっと並んでいた無断駐車がなくなるという思わぬ効果もあったとか。最近では、小学校の子ども達が、花壇手入れのお手伝いをするそうです。



未来を創るメッセージ

挨拶の聞こえるまち
花のあるまち
ごみのないまち

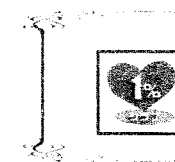


▲花壇のようす

自分のためにと始めたごみ拾いウォーキングが18年、花植えもいつの間にか5年。協力者や挨拶を交わす人が増え、地区に生きる喜びにつながっているとのことでした。

「古賀を愛する人が増えて欲しい。まず自分の周りから始めよう。」と黙々と実践されるひたむきで元気な方でした。

《日女》



今回のエコけん1%クラブ
8月は、お休みです。



思いを形に

特定非営利活動法人 **エコけん**

〒811-3114 福岡県古賀市舞の里5-24-13

【TEL/FAX】092-944-6450

【E-mail】eco_ecoken@ybb.ne.jp

【URL】http://www10.ocn.ne.jp/~ecoken